

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		日進市子ども発達支援センターすくすく園				公表日	令和7年3月21日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	69.80%	30.20%	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎限られたスペースを有効に使うために、使用しない机や椅子などはすぐに片付け、なるべく広いスペースを確保して事故につながらないようにしています。</li> <li>◎倉庫は週1回片付けの日を設けて整理するようにしています。</li> <li>◎パーテーション等を使用し、クールダウンスペースを作るなど限られた場所の有効活用を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎不用品はこまめに処分するとともに、定期的におもちゃや絵本の見直しを行い、倉庫内の整理整頓を心がける。</li> <li>◎限られたスペースの中でも、パーテーション等の活用をしたり、廊下等のスペースも活用することで、クールダウンスペース等を確保できるようにしていく。</li> </ul>
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	51.20%	48.80%	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎各クラスの人員配置基準を満たした上で、子どもの欠席が増えたなどの理由で人員に余裕が出た日は、臨機応変によりサポートの必要なクラスにスタッフを配置して、手厚い支援が出来る体制になるように配慮しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎各クラスの状況を適宜把握して、迅速にスタッフ配置を変更できる体制を整備すること。</li> <li>◎手厚い支援が必要な児が多いクラスでは、特に活動内容や対応方法の見直しが必要。</li> </ul>		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	83.70%	16.30%		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎限られたスペースの中でも、パーテーション等の活用をしたり、廊下等のスペースも活用することで、クールダウンスペース等を確保できるようにしていく。</li> </ul>		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	83.70%	16.30%				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	67.40%	32.60%	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎空き部屋がない時はテラスを散歩したり、遊戯室でクールダウンを図っています。</li> <li>◎大きめの段ボールやパーテーション等でクールダウンスペースを作っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎パーテーション等の活用をしたり、廊下等のスペースも活用することで、空き部屋がない時でもクールダウンスペース等を複数確保できるようにしていく。</li> </ul>		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	76.70%	23.30%	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎クラス単位では密に話し合いをして、業務の効率化等に努めています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎クラス単位だけでなく、職員全員での話し合いの時間の確保とその意見を業務改善に反映させていくための仕組み作りをしていく。(過去には福祉QC活動の取り組みをしていたが、現在は実施していないため)</li> </ul>		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	83.70%	16.30%	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎保護者評価は職員の自己評価と同じ時期に行い、結果をHPに公表しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎職員会議・全体会議を通して、保護者評価の指摘事項を職員全員で検討する機会を作る。</li> </ul>		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	74.40%	25.60%	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎全体会議の後に、職員の意見を聞く時間を設けています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎今後も全体会議の後に、定期的に意見交換の時間を作っていくようにする。</li> </ul>		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	74.40%	25.60%	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎外部評価はしていません。</li> </ul>			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	93.00%	7.00%	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎年5回の内部研修の他に、外部研修の参加も促しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎外部研修の機会を職員全員に周知し、参加を促すようにしている。</li> <li>◎研修案内を回覧していることが多いが、職員の数が多いので時間もかかるため、確実に全員に周知できる方法を検討。</li> </ul>		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	83.70%	16.30%	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎支援プログラムについては、2/26にHPに公表しました。</li> </ul>			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	93.00%	7.00%	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎課題によりOTやPTにも入ってもらい、助言をもらうようにしています。</li> <li>◎クラス会議で話し合い、アプローチの仕方や支援内容について共有しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎発達や障害特性に関するアセスメントツールの導入の検討。</li> </ul>		

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	86.00%	14.00%	◎計画を立案する際には、担任と児発管及び各種専門職とで子どもの姿を共有するようにしています。	◎児発管は多くの業務を抱えているため、適切に業務分担しながら、日々子どもの状態像の把握したり、関係する職員の意見も含めた検討が出来る体制作りを構築すること。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	90.70%	9.30%	◎個別支援計画を元に、担任が中心となって支援を行っています。	◎クラス会議の内容の充実や支援計画の内容の共有の仕方。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	83.70%	16.30%	◎各種専門職の見立ても参考に、現場の保育士としてのアセスメントを行っているが、標準化されたアセスメントツールは使用していない。	◎発達や障害特性に関するアセスメントツールの導入の検討。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	95.30%	4.70%			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	90.70%	9.30%	◎事前に担任が大まかな案を考え、クラス会議の時に細かい点を話し合うようにしています。また、製作の案（のりとハサミを使った季節の製作など）などはクラス会議前に各職員に提示し、各自見本などを持ち寄り、それをベースに話し合うこともあります。	◎クラス会議の限られた時間の中で、手順やポイント等をしっかり伝え、パート保育士にも分かりやすいようにしていくこと（全クラスで実施できるようにする）。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	95.30%	4.70%	◎手作りおもちゃや自立課題を作ったり、各クラスのお子さんの特性に合わせたおもちゃの購入も適宜しています。	◎限られた予算の中で、購入備品を精査したり、各クラスに効率的に配分をしていくこと。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	95.30%	4.70%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	95.30%	4.70%	◎クラス会議でプログラムの進め方等を事前に共有し、前日までに準備をするようにしています。	◎職員の打ち合わせ時間をどう確保していくか。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	97.70%	2.30%	◎14時半退勤の職員もいるので、14時の療育終了後15分は振り返り、後の15分は記録を書く時間とし、限られた時間の中でも情報共有できるように工夫しています。	◎出勤日でなかった職員とも確実に情報共有を行っていただけるように工夫する。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	◎振り返り後に速やかに記録をすることを心掛け、前回の記録から次の対応方法を考えるようにしています。	◎出勤日でなかった職員とも確実に情報共有を行っていただけるように工夫する。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	90.70%	9.30%	◎年3回の個人懇談の時などに保護者と共に計画を見直し、支援内容や次の課題について話し合うようにしています。	◎限られた時間の中で適切にモニタリングが行えるように、時間配分に注意し計画的に話し合いを進めるようにしていく。	
	関係機関や保護者	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	90.70%	9.30%		
		25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	88.40%	11.60%		
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	90.70%	9.30%	◎必要に応じて保育園・幼稚園にはお子さんの様子を見に行き、情報共有や支援方法の連携を図っています。	◎子どもの担任が直接、地域園に行けるような人員配置の工夫や日程調整をしていく。 (現状は、相談員や管理職が巡回に行く機会の方が多いため)	
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	83.70%	16.30%	◎年長児は市の学校教育課とも連携をして、情報共有をしています。また、特別支援学校とは、小学部主事と情報共有をしています。		
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	62.80%	37.20%	◎「六市一町児童発達支援交流会」に参加し、近隣市町の事業所と情報交換・意見交換を行っています。また、自立支援協議会子ども部会に参加し、市内の児童発達支援事業所等との情報交換等を行っています。	◎特定の人の参加ではなく、六市一町交流会の議題の内容により、他の正職員にも積極的に参加してもらうようにしていく。 ◎近隣の市町のセンターや事業所を見学する機会を作りたい。	
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	67.40%	32.60%				

との連携	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	67.40%	32.60%		
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	62.80%	37.20%	◎すくすく園のイベントで作った迷路に、近隣の園の年長児を招待しました。	◎多くの子どもたちが地域園と並行通園していますが、園として交流しているのは一番近い公立園のみです。今後、こうした交流を広げていくのかどうかは検討していきます。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	88.40%	11.60%			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	88.40%	11.60%	◎ペアレントプログラム・ペアレントトレーニング、その他の勉強会については、手紙や各クラス、掲示板などに掲示して周知し、多くの保護者が参加できるように配慮しています。	◎プログラム実施時に、託児の部屋や託児担当職員を確保すること。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	90.70%	9.30%	◎入園する時の説明で行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	93.00%	7%		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	88.40%	11.60%		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	95.30%	4.70%		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	86.00%	14.00%	◎卒園児保護者を中心とした保護者会の活動支援は適宜行っています。	◎今後行事の内容によっては、きょうだい児の交流機会も設けていけるか検討する。(内容やきょうだいの参加人数、職員配置、進め方などをどうするかなど)
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	93.00%	7.00%		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	93.00%	7.00%		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	97.70%	2.30%		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	95.30%	4.70%		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	58.10%	41.90%		
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	88.40%	11.60%	◎避難訓練は毎月行い、保護者にも周知しています。各マニュアルは作成中の物も含め、今後周知していきたいと思います。	◎各マニュアルの保護者への周知方法。(HP、各クラスに置き保護者がいつでも見られるようにするなど)	
46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	93.00%	7.00%			
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	95.30%	4.70%	◎子どもの健康状態を看護師が把握し、登園時または登園後に保護者にも様子を確認し、クラスの職員とも共有しています。各クラスからも、個々の児の健康状態を看護師に情報提供をしています。	◎クラス内では子どもの様子を共有しているが、他のクラスの情報を全部把握しているとは限らない。他クラスにお手伝いに入る場合もあるので、特にアレルギー児やてんかんのある子の情報は、全員で把握しておく必要がある。	

非常時等の対応	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	88.40%	11.60%	◎アレルギー児がいるクラスには給食の時間に看護師を配置するようにしています。	◎給食の時間は、アレルギー児に限らず支援が必要なお子さんが多いので、職員配置をどう工夫していくかは課題。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	90.70%	9.30%		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	88.40%	11.60%		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	90.70%	9.30%	◎ヒヤリハット、事故報告書を職員全員で回覧し情報共有しています。	◎職員が多いのでスムーズな情報共有の工夫と、再発防止策の検討等をする時間の確保が課題。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	95.30%	4.70%	◎虐待防止委員会が研修を行っています。	◎参加できなかった人の補講時間の確保が課題。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	81.40%	18.60%		◎これまで拘束をしたケースはないですが、必要な場合は、個別支援計画に身体拘束についても記載していきます。